

施設での生活に、より楽しみを持ちたい利用者への余暇活動の効果と課題

3年7組23番 白井美帆

1 はじめに

私は今回の介護実習で、昼食後何もすることがなくひとりで食堂にいる時間が多い90歳代の女性の利用者Aさんを受け持った。何もすることがないと周りをキョロキョロと気にしているAさん。生活歴や本人の発言（昔好きでやっていたこと、趣味等）から、何かに取り組むことにより退屈さを軽減できるのではないかと考えた。また、昔を思い出しながらか楽しく時間を過ごせ、周りの利用者、職員との親交を深めることができるのではないかと考え、余暇の時間を使い作業するという計画を立案し実施した。そこで、利用者の状況と今回の計画内容、援助方法を振り返り、良かった点、改善点、今後の課題を明確にするためにこの報告をまとめる。

2 事例概要（受け持ち期間：平成25年6月4日～6月21日
平成25年10月1日～10月22日 計29日間）

(1) 生活歴等

Aさん、90歳代女性。
2人きょうだいの長女として生まれた。特別養護老人ホームには80歳代後半で入所。20歳代で結婚し、3人の子どもを授かる。夫、長男はすでに他界。40歳代で仕事を始め60歳代まで続ける。

家族（本人からの発言も含む）より、できる範囲で家事をこなしており、テレビを見ること、出掛けることが大好きで、編み物や植木の手入れをよくしていたとのこと。

（図1参照）

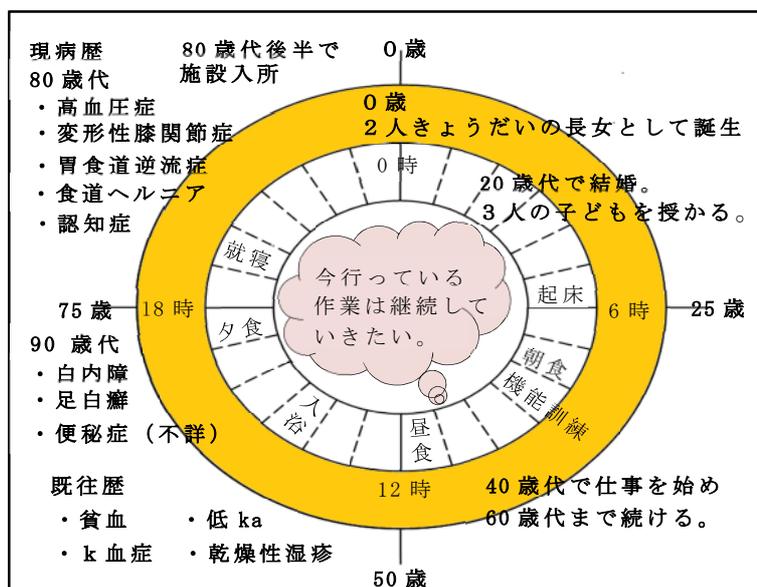


図1：ライフサークルチャート

(2) ADLの状況

行動面は、ほぼ自立している。歩行はシルバーカーを使用しており、ふらつきは見られないが、円背・疾患により前傾姿勢で、すり足やつまずきが時折見られる。食事形態は常食で食べこぼしもなく全量摂取している。入浴時は洗身・浴槽への出入りに一部介助が必要である。

認知面では、自分のこと、思いや気持ちを他者に伝えることができるが、短期記憶が困難なためにひとつ前にした会話の内容を覚えて

いられない。自分の生活の流れを理解し考えながら行動することができている。朝食後は時間になると自分から機能訓練室に向かい、清拭に使うタオルをたたむ作業を行っている（自分の仕事だと認識している）。収集癖があり、パットや紙やタオルを大量に所持しており、トイレに流してしまうため詰まらせてしまうこともある。排泄、食事、入浴、睡眠等、生活する上で必要な動作は覚えている。（図2参照）

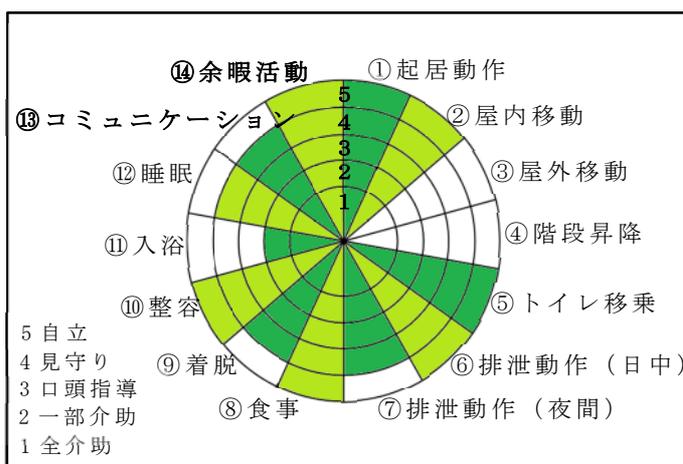


図2：ADLチャート

3 介護過程の展開

(1) アセスメント

アセスメントシート（表1）を用いて、10月1日にアセスメントを実施した。

コミュニケーションでは、⑨⑩⑱から、編み物に関すること等を他者にアドバイスしたり教えたりできることがわかる。編み物についてはしっかりと覚えている（認知できている）と推測できるが、それを生かせる機会が少ない。㉕から目が疲れるために編み物はやっていない様子だが編み物の話題を出すとAさんから進んで話をしてくれる。㉕㉖より好きなテレビ鑑賞はできているが、他者との関わりが少ないことが推測できる。

「余暇活動」では、⑬より機能訓練室には仕事で来ていると思っており、⑰より一生懸命に取り組もうとする姿があり、ひとりで作業を終えた際には達成感を感じていると推測できる。

以上より、満たされていないニーズとその理由として、

- i 昔行っていたことや昔を思い出せるような作業ができていない。
- ii 何かに取り組む時間はあるが、取り組めるものが何もなく、達成感や充実感を感じられる機会が少ない。
- iii 見当識障害により人の名前を覚えることが難しい。自分から他者へ声を掛けることが少なく、他者との関わりも少ない。

以上の3つがあると判断した。

これらより、受け持ち利用者Aさんが持つ生活全般のニーズとして#4「昔を思い出せるようなこと（作業）や無理のない範囲で新たなことにも挑戦したい」があると導き出した。

表1：アセスメントシート（抜粋）

項目	主観的情報	客観的情報	家族・関係者・記録からの情報
コミュニケーション	<p>⑨「編み物もしましたよ。四本針でね。踵のない靴下とか、着物とか、子どもにも毛糸のパンツもつくりましたよ。」（6/6）</p> <p>⑩（編み物のコツってなんですか？）「そうね、目を決めておくことかしら。」（6/6）</p> <p>㉕（最近編み物しないんですか？）「目が疲れちゃうのよね。細かいでしょ。」（6/18）</p>	<p>㉕自分から誰かに声を掛けることは少ない。話が進むにつれて話題を出してくれることはある。（6/12）</p> <p>㉖ひとりでテレビを見ている時間が多い。（6/12）</p>	<p>⑱機能訓練指導員より他の利用者が何かできないことがあると「何でできないの？ここはこうするの。」と強い口調で言う時はあるが、できない人の世話をしてくれる。（6/10）</p>
余暇活動	<p>⑬「今日はお仕事お休みなんですよ。毎日ここへ来て仕事するんですよ。」（6/12）</p> <p>⑰（こんなに沢山あると大変じゃないですか？）「これだけあると頑張ろうって思いますよ。ひとりでやった時はこんなにやったんだなって思いますよ。」（6/14）</p>	<p>⑭レクリエーションに参加し隣の利用者のお手伝いをしていた。（6/12）</p>	<p>⑩ケース記録（家族から）より（H22.8.23）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物、コーヒー、サイダーが大好きでよく飲んでいた。 ・植木が好きでよく手入れをしていた。 ・テレビが大好き。 ・できる範囲で家事をこなしていた。 ・編み物をよくしていた。 ・出掛けることが大好き。（6/10）

(2) 介護計画の実施

私は#4「昔を思い出せるようなこと（作業）や無理のない範囲で新たなことにも挑戦したい」というニーズを達成するために次の介護計画を立案した。

長期目標	短期目標	支援方法
#4-1 何もしない時間に自分のやりたいことをする。(10/7~4/7)	#4-1-① 短い時間でも何かに取り組む。 -(10/1~10/11)- →延長(10/1~10/18)	① <u>“やってみたい”、“やってみよう”と思えるように</u> ・毛糸や針に触れてもらい、編み物をしていた頃のことを思い出してもらおう。 ・「やってみたい」「やってみよう」という思いが見られたら、久しぶりに何かを作ってみることを促す。
	#4-1-② 自分の意思や思いをはっきりと相手に伝える。 -(10/1~10/11)- →延長(10/1~10/18)	② <u>自分の思いを大切にし、相手に伝えられるように</u> ・選択肢のあるものはAさんに聞いて選んでもらう。 ・しっかりと時間を取ってAさんの話を聴き、思いや考えを受けとめる。
#4-2 作業を楽しく行う。(10/7~4/7)	#4-2-① Aさんから話し掛けてくれることが多くなり、笑顔が増える。 -(10/7~10/11)- →延長(10/7~10/18)	① <u>笑顔で過ごせるために</u> ・不満を感じたり困ったりすることはないか、表情や言動を観察し確認する。 ・一息ついた時に声を掛ける。 ・編み物に関すること以外の話題を会話に取り入れ楽しむ。
	#4-3-① 自分で考え、自分の手で作る。 -(10/7~10/11)- →延長(10/7~10/18)	① <u>機能維持と低下の予防のために</u> ・どういうものを作成するか、どのように作るか考えながら行うよう促す。 ・ゆっくりでも良いので自分で作るよう促す。
	#4-4-① 作品を完成させる。 -(10/7~10/11)- →延長(10/7~10/18)	① <u>“できた”、“できる”という思いを大切にするために</u> ・Aさんのペースに合わせた計画を立てて完成させる。 ・作品ができ上がったこと、作品のできばえについて共に喜び、達成感とやりがいを感じてもらおう。

(3) 援助の実施

i 方法

Aさんが編み物を思い出し、また編み物をしてみようという意欲がわくように、以前はなかったような珍しい毛糸の写真を見てもらう。そして、毛糸と針を用意し実際に触れ、編んでもらう。その際、Aさんの編み物に対する思いと、どの程度覚えているのか、編めるのかを確認する。「やってみませんか？」と誘う。世話好きで職人気質な一面があることから、2回目以降は、教えてもらいたい、手伝ってもらいたいといったような、お願いする姿勢で誘う。作成するものや、作成時に必要な物品を選択してもらう。昔のことを楽しそうに話してくれることから、思い出話やたわいもない会話も取り入れる。「ここはどうすればいいですか？」というようにAさんを頼りながら、Aさんのペースに合わせて少しずつ進めていき、作品を完成させる。

ii 注意したこと

- ・実施する前に必ず声を掛け、体調の確認後、作業内容を説明し、了解したことを確認の上、参加してもらうようにした（表情や反応、発言を観察し変化に気づけるようにした）。
- ・落ち着いて作業に取り組んでもらえるように、作業する時間や場所、周りの環境を整えた。
- ・Aさんを中心に作業を進めてもらうため、実習生はできるだけ手を出さないようにした。
- ・目の疲れや肩の凝り、痛みが出ていないか確認しながら行うようにした。
- ・針、はさみ等の管理をしっかり行い安全に実施できるようにした。

iii 工夫したこと

- ・写真や実物を用意し、興味やイメージが沸きやすいようにした。
- ・作成する作品を選択しやすいように幾つか案を用意しておいた。
- ・毛糸の色、サイズ、種類といった幾つもあるような物は、パーツごとに分けて選びやすいようにした。
- ・作り方や編み図、編み物の記事についてのファイルを作成した。
- ・Aさんの案や意見を大切にし、それをもとに進めるようにした。
- ・教えてもらいたい、手伝ってもらいたいといったようお願いする姿勢で臨み、作業後は「ありがとうございました。助かりました。」とお礼し、Aさんに自信を持ってもらい、それを生きがいに繋げてもらえるように心掛けた。

iv Aさんの反応

Aさんが毛糸と針を持ち編み出した時に「凄いですね。覚えているじゃないですか。」と実習生が声を掛けると、恥ずかしそうに声を出して笑い、「今度、一緒に何か編みましょうよ。」と言ってくれることがあった。実習生から誘うと「私なんてできないわよ。」と言われてしまうこともあったが、傍で編み物の準備をしていると、自分から毛糸や針に触れ一緒にやってくれることもあった。一緒にやろうと促さなくても、編みはじめてくれることもあり、作業中は清拭用のタオルをたたむ作業をしている時と同様に真剣な様子うかがえた。実習生の編み方に対し「ここをこうやって、この辺りから…」というように丁寧に教えてくれ、実習生が編んでいる時には常に手元を気に掛けてくれていた。時には他者と会話をしながら微笑んだり声を出して笑っていることもあった。実習生が完成させた作品をじっくりと見て、褒めてくれ、一緒になって喜んでくれた。



(4) 評価～効果と課題～

Aさんが好きだった編み物を取り入れてみることにより、Aさんが積極的に取り組み、何もすることがない退屈な時間を減らすことができた。また、集中して作業に取り組めたことで、周りをキョロキョロと気にするというような行動を減らすことができた。ひとりでいた時間が多かったAさんの周りには7人の集団ができ、Aさんから周りの利用者へ話し掛ける様子が見られ、会話中には笑顔がうかがえた。

ADLの状況・行動面・認識面・発言より、Aさんには好きだったことやできることが多くあることが分かった。何もすることがなく退屈な時間に、そうしたことを無理のない範囲で生かし実施することで、生きがいややりがいを持って生活できることに繋がるのではないかと考えた。また、日中の活動時間を増やすことにより、夜間の睡眠・排泄等の1日の生活リズムに良い変化が現れることも期待できることから、この計画は継続とする。

4 考察

今回の介護実習を通し、ひとりの利用者のニーズをあらゆる方向から導き出し、多職種で連携し合いながら支援していくことの重要性と必要性、ひとりの人を理解する難しさを改めて感じ学んだ。

Aさんの言葉の裏側にある思いを読み取り、本当に望むニーズを導き出すことが難しかった。だが、新たな作業に挑戦し、やり遂げられたことから“今行っている作業を継続していきたい”というAさんの思いと“できるという思いを大切にしたい”という家族の思いを取り入れた介護計画が実施できたのではないかと考える。また上記の反応・効果も現れたことから、今回の介護計画はAさんにとって妥当であると考えられる。

5 参考文献

- ①石野育子編：最新介護福祉全書7介護過程、メジカルフレンド社、2013。
- ②能田茂代編：最新介護福祉全書8介護総合演習、メジカルフレンド社、2013。

施設での生活に、 より楽しみを持ちたい利用者への 余暇活動の効果と課題



2013. 11. 29
千葉県立松戸向陽高等学校
福祉教養科 3年7組23番 白井美帆

はじめに

Aさん 昼食後何もすることがなく一人で食堂にいる時間が多い。
周りをキョロキョロと気にしている

何かに取り組むことで…

- 退屈さの軽減
- 昔を思い出しながら楽しい時間を過ごす
- 利用者、職員との親交を深める

が、できるのではないかと考えた。

余暇の時間に作業する

Aさんについて



事例概要1



基本情報

性別 女性	年齢 90歳代	要介護度 2
障害高齢者の日常自立度 A2	認知症高齢者の日常自立度 III a	

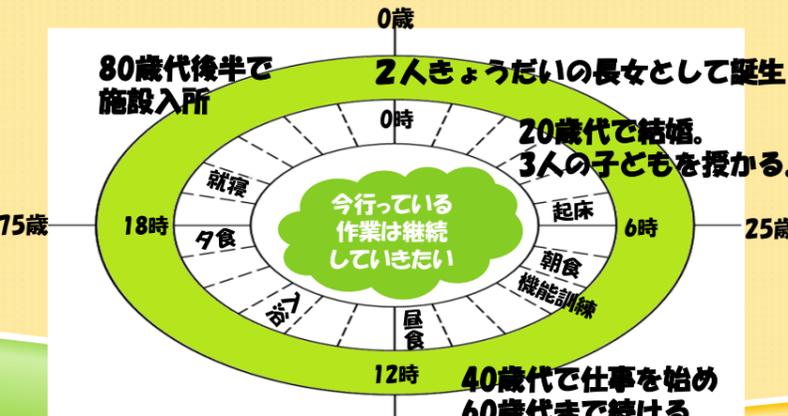
現病歴

- ・ 高血圧症
- ・ 変形性関節症
- ・ 胃食道逆流症
- ・ 食道ヘルニア
- ・ 認知症
- ・ 白内障
- ・ 足白癬
- ・ 便秘症

既往歴

- ・ 貧血
- ・ 低Ka
- ・ K血症
- ・ 乾燥性湿疹

事例概要2 ライフサークルチャート



0歳 2人きょうだいの長女として誕生

20歳代で結婚。3人の子どもを授かる。

40歳代で仕事を始め60歳代まで続ける。

80歳代後半で施設入所

今行っている作業は継続していきたい

起床 6時
朝食 機能訓練
昼食
夕食
就寝 18時

事例概要3 活動・ADLチャート



14 余暇活動

13 コミュニケーション

12 睡眠

11 入浴

10 整容

9 着脱

8 食事

7 排泄動作 (夜間)

6 排泄動作 (日中)

5 トイレ移動

4 階段昇降

3 屋外移動

2 屋内移動

1 起居動作

5 自立
4 見守り
3 口頭指導
2 一部介助
1 全介助

事例概要4

好きなこと・よくしていたこと

- ・テレビを見ること
- ・出掛けること
- ・編み物
- ・植木の手入れ

毎日頑張っていること

清拭用の
タオルたたみ

性格

- ・穏やか
- ・こだわりがある
- ・お世話好き

事例概要5

今行っている
作業は継続
していきたい

できるという
思いを
大切にしたい



介護過程の展開 アセスメント1

- 「編み物もしましたよ。四本針でね。踵のない靴下とか、着物とか、子どもにも毛糸のパンツもつくりましたよ。」(6/6)
- 「そうね、目を決めておくことかしら。」(6/6)
- 編み物をよくしていた。(6/10)
- 「目が疲れちゃうのよね。細かいでしょ。」(6/18)

以上より

介護過程の展開 アセスメント1-①



i 昔行っていたことや
昔を思い出せるような
作業ができていない。

介護過程の展開 アセスメント2

- 「何でできないの？ここはこうするの。」(6/10)
- できない人の世話をしてくれる。(6/10)
- レクリエーションに参加。(6/12)
- 隣の利用者さんの手伝いをしていた。(6/12)
- 「これだけあると頑張ろうって思いますよ。一人でやった時はこんなにやったんだなって思いますよ。」(6/14)

補足：午前中に行っている清拭たたみには達成感を感じていられると推測できるが、昼食後は取り組めることなく何もしていない時間が多くある。

以上より

介護過程の展開 アセスメント2-①



ii 何かに取り組む時間は
あるが、取り組めるものが
何もなく達成感や充実感を
感じられる機会が少ない。

介護過程の展開 アセスメント3

- 自分から誰かに声を掛けることは少ない。話が進むにつれて話題を出してくれることはある。(6/12)
- 一人でテレビを見ている時間が多い。(6/12)

以上より

介護過程の展開 アセスメント3-①



iii 見当識障害により人の名前を覚えることが難しい。自分から他者へ声を掛けることが少なく他者との関わりも少ない。

介護過程の展開 アセスメント4

- i 昔行っていたことや昔を思い出せるような作業ができていない。
- ii 何かに取り組む時間はあるが、取り組めるものが何もなく、達成感や充実感を感じられる機会が少ない。
- iii 見当識障害により人の名前を覚えることが難しい。自分から他者へ声を掛けることが少なく、他者との関わりも少ない。

介護過程の展開 アセスメント5

「昔を思い出せるようなこと(作業)や無理のない範囲で新たなことにも挑戦したい」

立案1

長期目標
#4-1 何もしない時間に自分のやりたいことをする。

#4-1-① 短い時間でも何かに取り組む。

#4-1-② 自分の意思や思いをはっきりと相手に伝える。

立案2

長期目標
#4-2 作業を楽しく行う。

#4-2-① Aさんから話し掛けてくれることが多くない、笑顔が増える。

#4-3-① 自分で考え、自分の手で作る。

#4-4-① 作品を完成させる。

立案3

昔を思い出す
達成感・充実感
他者との関わり

具体的に何をするのか？

立案4

他者との
関わりが
少ない。

アドバイスし
たい教えたい
できるが、生
かせる機会が
少ない。

進んで話を
してくれる。

目が疲れる
ために…

しっかりと
覚えている。

一生懸命に取り
組もうとする
姿があり、達成
感を感じること
ができる。

立案5

編み物

I 援助方法①

- 編み物を思い出し、意欲がわくように。
- 毛糸と針を用意し実際に触れ、編んでもらう。
- 物品を選択してもらおう。
- 思い出話やたわいもない会話も取り入れる。
- Aさんを頼りながら、Aさんのペースで。
- 作品を完成させる。

I 援助方法②

1回目

「やってみませんか？」

2回目以降

お願いする姿勢

IV Aさんの反応①

- 「今度、一緒に何か編みましょうよ。」
- 自分から毛糸や針に触れ一緒にやってくれた。
- 作業中は真剣な様子がかがえた。
- 「ここをこうやって、この辺りから…」
- 常に手元を気に掛けてくれていた。
- 会話をしながら微笑んだり声を出して笑っていた。
- 作品を見て、褒めてくれ、一緒になって喜んでくれた。

IVAさんの反応②

やってみませんか？ ➡ 私なんてできないわよ。

お願いする姿勢

➡ 「何もすることいから良いわよ。」
 「ええ。できることならなんでも。」



作成期間
4日間!

ほのぼの
ミニ花鉢

富士山型のアクリルたわし



3日間!
作成期間

評価～効果～

- 何もすることがない退屈な時間の減少。
- ひとり➔7人。
- Aさんから周りの利用者へ話し掛ける。
- 会話中に笑顔。



介護過程の展開 評価～課題～

好きだったこと・できることが多い。

日中の活動時間を増やす

生きがい
・
やいがい

夜間の睡眠・排泄等の
1日の生活リズムに
良い変化が現れることも
期待

介護過程の展開 考察

多職種で連携
し合いながら支援
していくこと

重要・必要

ひとりの人
を理解する

Aさん「今行っている作業を継続していきたい」
 家族「できるという思いを大切にしたい」
 取り入れた介護計画の実施

謝辞

ご清聴ありがとうございました。

この場を借りてお世話になった、
実習施設、職員の方々、先生、家族、
後輩のみんな、3年7組のみんな、相方、
そして担当させて頂いたAさん。

心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。

